

# 軽度外傷性脳損傷の民族楽器奏者

## 点描画「生きる証し」に

オーストラリア先住民アボリジニの木管楽器ディジュリドゥの奏者、GOMAさん(37)は09年11月の追突事故で軽度外傷性脳損傷(MTBI)と診断された。記憶力が落ち音楽活動を中断しているが、新たに点描画に生きがいを見いだした。「記憶が定かでない今、絵は生きている証し」。そんなメッセージを込めた個展を29日まで東京で開いている。【大口護

### 29日まで東京で個展

大阪出身のGOMAさんが、音楽人生は09年11月には大学時代の94年にディジュリドゥを始め、98年にはアボリジニの聖地アーネムランドの競技会で外国人では初めて準優勝した。その後アルバムなどの11枚を出し、ロックの祭典・フジロックフェスティバルにも出演。だ

した。

妻が昨年末の毎日新聞の記事「MTBI162人確認」を見たことをきっかけに、湖南病院(茨

城県下妻市)の石橋徹医師らの診察を受けMTBIと診断された。二つのことを同時にできない高次脳機能障害や左手足の

力が弱い症状などがあつた。楽器の吹き方も一時忘れ、ぼんやり過ごす中、長女の絵の具を見て始めた。力が弱く何を描いているか分からなくなりゼロからやり直す。でも絵が生きる証しに思えてうれしくなる」と話す。個展は東京都港区南青山4のギャラリー・PLSMS(☎03・6459・2251)で約40点を展示する。入場無料。



豪先住民アボリジニの民族楽器「ディジュリドゥ」(左奥)が置かれた部屋で、個展に向けて絵を描くGOMAさん  
—東京都調布市の自宅で、森田剛史撮影